

研究費取得のコツ

(公社)地域医療振興協会研修資料
柳川 洋

2015.7.3

研究費獲得の戦略

- 文部科学省の科学研究費の様式を例として取り上げる
- 厚生科学研究費はほぼ同様の様式
- 民間研究費の様式は簡略なものが多い
- 研究費獲得のための戦略を皆さんと一緒に練ろう

平成26年度科学研究費採択状況 新規採択分

平成25年11月現在

研究種目	採択率	平均配分額(千円)
基盤研究A(2-5千万円)	23.8%	12,545
基盤研究B(500万-2千万円)	24.7%	5,311
基盤研究C(500万円以下)	30.0%	1,449
挑戦的萌芽研究(500万円以下)	29.9%	1,515
若手研究A(500万-3千万円)	22.2%	7,753
若手研究B(500万円以下)	30.0%	1,382
研究活動スタート支援	24.1%	1,043
奨励研究	18.6%	492
計	30.3%	2,382

分野、種類にかかわらず、1/3~1/5は採択される

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/data/3-1-1/3-1-1_all.pdf

平成27年度科学研究費 研究種目（抜粋）

研究種目	期間
基盤研究A(2-5千万円)	3-5年
基盤研究B(500万-2千万円)	3-5
挑戦的萌芽研究(500万円以下)	1-3
基盤研究C(500万円以下)	3-5
若手研究A(500万-3千万円)	2-4
若手研究B(500万円以下)	2-4
研究活動スタート支援 (単年度当たり150万円以下)	2年以内
奨励研究	1年(別掲)

特別推進研究、特定領域研究、新学術領域研究、基盤研究S、
若手研究Sなどの高額研究費は略した

平成26年度科研費ハンドブック

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/15_hand/index.html

奨励研究(平成26年度科研費ハンドブックより)

対象

- 小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校・幼稚園・専修学校の教員
- 教育委員会の所管に属する教育・研究機関の職員、企業の職員又はこれら以外の者で科学研究を行っている者
- 1人で行う研究で、大学等の研究機関で行われないような教育的・社会的意義を有する研究

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/11_shourei/index.html

科学研究費の応募資格

文部科学大臣が指定する研究機関に所属する者で、その研究機関から以下の1-3の要件を満たす研究者と認められ、府省共通研究開発管理システム(e-Rad)に登録されている者

1. 研究活動を行うことを職務に含む者で、有給・無給、常勤・非常勤、フルタイム・パートタイムの別を問わない
2. 研究活動に実際に従事していること(研究補助のみの者は含まない)
3. 大学院生は含まない(教員や研究者などで学生の身分を有する者は除く)

科学研究費の申請ができる者

科学研究費の応募資格を有する者で、文部科学省研究費の研究代表者として継続中の者以外は、原則として全員申請可

(他の研究代表者の分担研究者として継続中または新規の者全員申請可)

×切りまで余裕があるかもしれませんが、早めに準備してください

資料 科研費ハンドブック(研究者用・研究機関用)2014年度

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1347112.htm

科学研究費の公募から決定の流れ

公募開始	前年度の9月1日
応募〆切	前年度11月上旬
審査期間	前年度の12月上旬～3月中旬
交付内定	4月1日
交付決定	6月中旬

平成26年度科研費の公募について

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/h26_koubo/index.html

文部科学省科学研究費の申請様式 基盤研究Cの例(主要項目の抜粋)

研究目的

研究計画・方法(概要と全体に分けて)

準備状況・研究成果の発信方法

研究業績(最近5年分が中心)

これまでに受けた研究費とその成果

(本研究の立案に生かされているもの)

人権保護・法令遵守への対応

(倫理委員会等で承認を要するもの)

研究経費の妥当性・必要性・積算根拠

研究費の明細(設備備品、消耗品、国内旅費、国外旅費、人件費・謝金、その他)

研究費の応募・受け入れ・エフォート

資料

https://www.jspss.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/data/h27/2oubo-content/s-1-08.pdf

基盤研究(S・A・B・C)、若手研究(A・B)、 挑戦的萌芽研究の評点基準

- 第1段階審査(審査員4-6人)

研究内容、研究計画に関する絶対評価と5段階による総合評点の相対的な評価

- 第2段階審査

第1段階審査における総合評点(評点者によるばらつきの補正)、各項目の評点、研究分野の特性、応募状況を考慮して、課題の採択と研究費配分額を決定

基盤研究(A・B・C)、若手研究(A・B)

第1段階審査の評点要素

- 評点要素(4段階の絶対評価)
 1. 学術的重要性・妥当性
 2. 研究計画・方法の妥当性
 3. 独走性及び革新性
 4. 波及効果及び普遍性
 5. 研究遂行能力及び研究環境の適切性
 6. 人権保護、法令遵守(不十分△、不適切×)
- 総合評点(5段階の相対評価)

5点	最優先で採用すべき	10%
4点	積極的に採択すべき	20%
3点	採択しても良い	40%
2点	採択の優先度が低い	20%
1点	採択すべきではない	10%
- 審査意見

申請書記入上の全般的な注意事項(1)

- 記入要領をよく読み、指示通りに
- ゴツと見ただけでストーリーがわかるように
- 段落ごとに、何がいたいかがわかるように
- できるだけ簡潔に
- 箇条書きを上手に使う(ポイントが整理される)
- ときにはキーワードに横文字を
(横文字が多すぎると逆効果?)

申請書記入上の全般的な注意事項(2)

- レイアウトはシンプル、かつ目立つように
- 太字、ゴシック、【 】, []などをうまく取り込む
- 目立ちすぎるのは逆効果

(カラーは使わない方がよいかも)

- スペース全体が埋まるような字数

すかすか ✖、ぎっしり詰まりすぎ ✖

紙面を埋めるための小細工 ✖

(小細工の例: フォントを大きくする、行間を広げる)

申請書記入上の全般的な注意事項(3)

- 正しい日本語
(主語、述語、句読点、ひらがなと漢字の一貫性)
- 誤字、脱字は致命的
- 完成したと思っても必ず間違いがある
(人に読んでもらう、声を出して読む)
- 十分に時間をとって作文
(2、3日ではだめ。少なくとも1-2週間、できればもっと時間をかけたい)
- 読めば読むほどに間違いが見つかる

系・分野・分科・細目

どの分類を選ぶかによって、採否の可能性に影響あり

[公衆衛生・看護関係の例]

○分野： 医歯薬学

分科： 社会医学

細目名： 疫学・予防医学、衛生学・公衆衛生学
病院・医療管理学、法医学

分科： 看護学

細目名： 基礎看護学、臨床看護学、生涯発達看護学
高齢看護学、地域看護学

資料：文部科学省・日本学術振興会 科研費助成事業2014 45-46ページ
「系・分野・分科・再目表」を参照

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/24_pamph/data/pamph2014.pdf

研究課題名

長すぎない(制限字数よりやや短かめ)

課題から研究内容がイメージできるタイトル

できるだけ具体的(サブタイトルはつけない方がよい?)

[例]

○健康危険因子としてのライフスタイルの変容を評価するための指標の開発

○健康日本21の目標達成度を測定するための疫学指標の開発と評価

○二次医療圏単位の健康政策指標と平均余命の対比による地域差要因の解析

×ライフスタイルの変容に関する研究

×健康度の評価指標の作成

×地域における健康格差に関する研究

研究経費の総額

制限額の上限に近い金額を設定

[例] 若手研究B、基盤研究C

→490万円位 (上限500万円)

基盤研究B→1980万円 (上限2000万円)

(金額が多くても採択率に影響はないので、遠慮しない)

- 採択された場合、通常、申請金額の7～8割
若手研究(B)71%～基盤研究(C)87%
- 計算間違いは致命的
(金額の表示は千円単位のことが多い)
- 費目の構成はバランスよく
(バランスが良くないときは、納得できる理由を記載)

研究経費の妥当性・必要性

- 「研究計画・方法」で述べた研究規模、研究体制を踏まえて、研究経費の妥当性・必要性を明確に
- 研究計画のいずれかの年において各費目が全体の90%を越える場合、または特に大きな割合を占める経費がある場合は、その経費の必要性・内訳等をわかりやすく記述する
- できるだけアンバランスを避けたい

研究期間

- 研究期間は1－5年

(種類によって異なる)

- 自信のある人は短い期間にして、終了後再度申請

(例:2－4年のものでは、2年に)

(総額の制限は、研究期間に関係がないので、短期間にして、申請を重ねる方が、年間に獲得できる資金が多くなるが、リスクもある) ハイリスク・ハイリターン？

研究組織の構成

- 研究代表者(要応募資格)
事業の遂行に当たってすべての責任を持つ人
- 研究分担者(要応募資格)
代表者ととともに事業の遂行に責任を負い、分担金の配布を受けて、自らの裁量で研究費を使用する者
- 連携研究者(要応募資格)
研究費を主体的に使用しないが、研究組織の一員として研究に参画する者
- 研究協力者(応募資格不要)
研究費を主体的に使用しないが、研究課題の遂行に当たって協力を行う者

研究チームの編成・組織

- 研究に必要な複数の分野の人でチーム編成
- 他施設の人を1-2人入れても良い
(ただし半数以下)
- 分担研究者の役割を明確に「役割分担」の欄に、具体的に分担の内容を記述
- 「現在の専門」はできるだけ細かく
例 スポーツ医学より、運動疫学の方が具体的
疫学より、循環器病の疫学
内科学より、心臓病学
- 「エフォート」は、10%~30%の範囲か、研究代表者はやや多く

研究目的

記載にあたっては文部科学省の指示に従う

- 研究の全体構想、具体的な目的について、冒頭にその要旨を記述（適宜文献を引用しつつ）
- 見出しはゴシックなどを使って強調
- 特に次の点について、具体的かつ明確に記述

① 研究の学術的背景（本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容）

② 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか

③ 学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

研究計画・方法(1)

記載にあたっての文部科学省の指示

目的達成のための具体的な研究計画・方法(一部略)

- 冒頭に要旨
- 初年度と次年度以降の計画に分けて(適宜文献を引用)
- 計画どおりに進まない時の対応
- 研究体制
- 研究代表者と分担者の具体的な役割
(図表を用いるのが、効果的)
- 研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性
- 連携研究者及び研究協力者(海外の協力者、応募資格を有しない企業の研究者、大学院生など)の役割を明確にして、研究体制の全体像を示す

研究計画・方法(2)

一般的な注意事項(a)

- リアリティのあるもの
- 初年度と2年目以降を分けて、具体的に簡潔に
- 複数の研究課題があるときは、番号と見出しをつけ、課題ごとに担当者名を記述
- 代表者と分担研究者の関係を明確に
- 太字やゴシックなどを使って見出しを強調
- 文献検索を初年度の計画に入れるのは良くない
(文献は十分にレビューした上で計画を策定するという前提)

研究計画・方法(3)

一般的な注意事項(b)

- 多額の備品購入の場合は、必要な理由、研究のどの部分に使用するかを明確に
- 旅費：旅行の目的、必要な理由を明確に
(単なる学会出席、学会発表は良くない)
- 謝金：職種、人数、日数、仕事の内容、研究実施上の必要性を明確に(謝金の内容で「テープ起こし」は良くない)
- 調査を実施する場合は、調査体制、準備状況、見通しを具体的に
(調査内容・手順、対象の選定、対象数を明確に)

研究計画・方法(4)

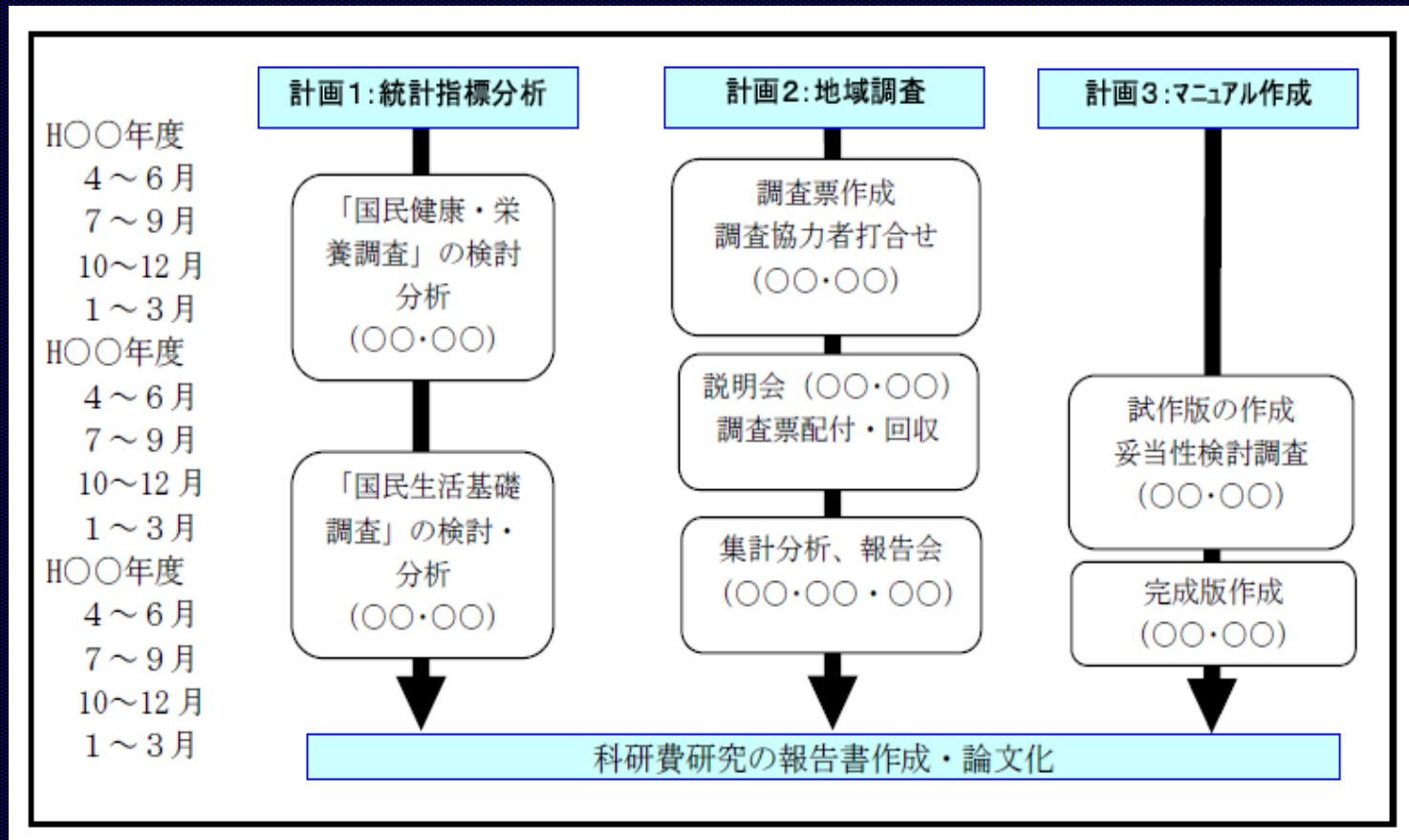
一般的な注意事項(c)

- 「アンケート調査」という書き方は良くない
より学術的な表現が好ましい
例「自己記入式質問調査」
「面接による質問調査」
- 初年度については、研究費の各費目区分ごとに、研究計画との関連性を明確にする
- 研究開始から終了までのタイムテーブルをわかりやすく(カレンダーとセットにした記述がよい)

研究計画・方法(5)

タイムテーブルの例

カレンダーとセットにしたタイムテーブルの例



(CW提供)

研究計画・方法(6)

一般的な注意事項(d)

- いつまでに何を明らかにするかの見通しを、具体的、明確に
- 個人情報保護、生命倫理に関する記載
具体的な保護方法を記載
課題によっては、あらかじめ倫理委員会の審査を受けて、その旨申請書に記載

設備備品・消耗品・旅費・謝金の明細

- 設備備品：品目ごとに設置機関を記述
- あまり多くの図書購入は望ましくない
- パソコン、記録媒体などはなるべく計上しない
- 単に「事務用品」などという記載はよくない
- 備品の割合が大きすぎないように
特別の理由がない限り30%以内
- 研究の実施には、備品、設備等のサポートがあるという前提
- 旅費：調査実施、資料収集、研究打ち合わせ、研究計画策定、訪問調査など、旅行目的を明確に
- 謝金：仕事の内容、必要性、単価、積算を明確に
謝金の割合は多すぎないように
(特に理由がない限り30%以内か)

文献の記載

一般的な注意事項

- ① 最近5年間(2011-15年)のもの
- ② 学術誌に投稿した論文、著書で本研究に関係の深いもの
- ③ 発表年次を新しいものから過去にさかのぼる
- ④ 研究代表者、分担研究者ごとに順を追って記載
- ⑤ その他の記載上の注意を良く読む
 - 文献として、学会での一般演題、過去の研究班の報告書などの記載はマイナスかもしれない
 - 研究に直接関係のある文献が少ないときは、直接関係がなくても、何とか関連がつくものを記載
 - 現在投稿中で、アクセプトされたものは記載

研究費助成に関する情報収集

配付資料 リンク先一覧を参照

過去の研究課題・成果の検索例

研究課題・成果を探す→KAKEN

KAKEN科学研究費助成事業データベース <https://kaken.nii.ac.jp/>
検索の例： 虚血性心疾患の疫学研究 2000～2015年 新規採択分

1. フリーワードの欄にキーワードを並べて入力

例： 虚血性心疾患 疫学

2. 「研究課題を検索」をクリック

両キーワードを有する課題が**190件**表示される

3. 「条件再設定」をクリック

「採択年度2000年～2015年」、「新規採択」のみを選択

4. 「研究課題を検索」をクリック

両キーワードを有する課題が**129件**表示される

5. 「条件再設定」をクリック

キーワードに「死亡」を追加する

6. 「研究課題を検索」をクリック

3つのキーワードを有する課題が**51件**表示される

データの内容

研究課題、研究者氏名、研究期間、研究分野、研究種目、
研究機関、キーワード、研究概要、など

「公衆衛生ねっと」の利用

民間研究費助成に関する情報収集(1)

「公衆衛生ねっと」からの情報収集

↓
リンク集

↓
目次「研究・教育支援」を選択

↓
(公財)研究助成センター <http://www.jfc.or.jp/> を選択

↓
助成金情報(データ検索)を選択

↓
3助成プログラム検索

民間研究費助成に関する情報収集(2)

助成財団データベース／助成プログラムを検索

[検索の手順]

- ・事業形態
- ・事業分野
- ・キーワード(必要があれば)
- ・募集時期

[検索の例](2015.6.30現在)

- ①事業形態: 研究・事業プロジェクト
- ②事業分野: 医療保健・福祉
- ③募集期間: 現在募集中(137件)
期間を指定しない(480件)



関心のある項目の詳細を見る
(必要があれば助成団体のホームページでチェック)

「公衆衛生ねっと」へのお誘い

「公衆衛生ねっと」へのご参加を歓迎します。

特典

- 公衆衛生・健康づくり関係者の交流促進
- メーリングリストを通して最新情報の取得
- 調査研究の支援
- 研究費申請の支援
- 論文作成の支援

手続きは簡単です。

下記にアクセスしてください。

<http://www.koshu-eisei.net/>